



糖尿病・内分泌疾患ってどんな病気？

内分泌・糖尿病内科代表部長
荻原 貴之

●糖尿病、内分泌疾患とは

現在、糖尿病の患者数の増加は世界的な問題となっています。本邦も例外ではなく、2012年の国民健康栄養調査では糖尿病が強く疑われる人は約950万人、糖尿病の可能性を否定できない人は約1100万人とおおよそ2050万人、即ち国民の6人に1人が耐糖能障害を有すると推計されています。

糖尿病の最大の問題は血糖値が高いことだけではなく、高血糖が持続することにより惹起される合併症であり、それに伴ういわゆる健康寿命の短縮、さらにその治療に要する医療費を含めた経済的損失です。糖尿病の合併症は、古くからいわれている糖尿病網膜症、腎症、神経障害といった比較的細い動脈が障害される細小血管障害のほか、虚血性心疾患など比較的太い動脈が障害される大血管障害がありますが、最近では認知症や骨粗鬆症なども糖尿病に合併する危険性が高いことが明らかになり、現在の糖尿病診療ではこのような疾患も視野に入れた治療が求められるようになってきました。

一方、身体の恒常性を維持する物質の一つにホルモンがあります。内分泌疾患とはそのホルモンに異常をきたすことによって発症する病気が内分泌疾患です。代表的なものとして甲状腺疾患、副腎疾患、副甲状腺疾患などがあり、症状としても疲れやすい、元気がない、いらいらする、体重が減ってきたといったつかみどころのないようなものが多いですが、治療により症状が劇的に改善することが多いです。

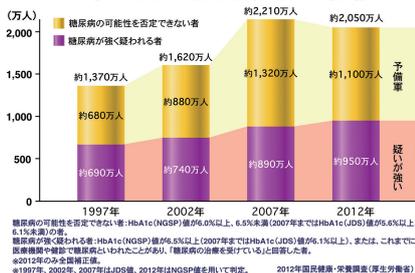
●当院における糖尿病並びに内分泌疾患の診療

当院内分泌・糖尿病内科では荻原と非常勤医師として青木智之医師が診療にあたっています。現在800名前後の方が当科外来に定期的に受診されており、その多くの方が糖尿病に罹患された方です。糖尿病診療では、経口血糖降下薬による治療だけでなく、外来でのインスリン療法の導入も積極的に行っています。また、ただ単に血糖値のコントロールを行うだけでなく、定期的な栄養指導や服薬指導、透析予防指導、フットケアにも力を入れています。内分泌疾患については診断のため、なるべく多くの検査を外来で行っており、糖尿病診療と同様に入院して行う治療、検査は最小限に留めるなどの工夫をしています。

●糖尿病教育入院

糖尿病は教育の病気であると言われており、糖尿病診療において患者教育は重要な位置を占めています。当院では教育入院にも力を入れており、3日間あるいは1週間の入院期間の内に医師だけでなく看護師、栄養士、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士といった専門の職員から糖尿病治療に関しての講義を受けることができます。外来ではどうしても診療時間が短くなりがちですが、教育入院の機会を利用して糖尿病治療に関する知識を習得することにより、外来での治療内容についてもより深く理解していただけるものと考えております。

日本における糖尿病人口の推移



透析導入の主要原因疾患の推移



日本人2型糖尿病患者と脳心血管疾患発症率 (JDCS9年時中間報告)

	冠動脈疾患	脳卒中
日本人 2型糖尿病患者 (JDCS 9年次中間報告)	8.9 (男10.7/女6.8)	7.8 (男8.5/女7.0)
一般住民 (久山町研究第3集団*)	男3.5/女1.8	男5.3/女3.9
英国人 2型糖尿病患者 (UKPDS33対照群)	17.4	5.0

*2,637人(40歳以上),1988-2000.糖尿病・相対リスクを約30%含む(Stroke 2003; 34: 2349-54)